株式会社真興社

東京都渋谷区猿楽町19-2
代表者：福田真太郎氏
TEL 03-3462-1181
FAX 03-3462-1185
http://htc.hotaru-printing.com/

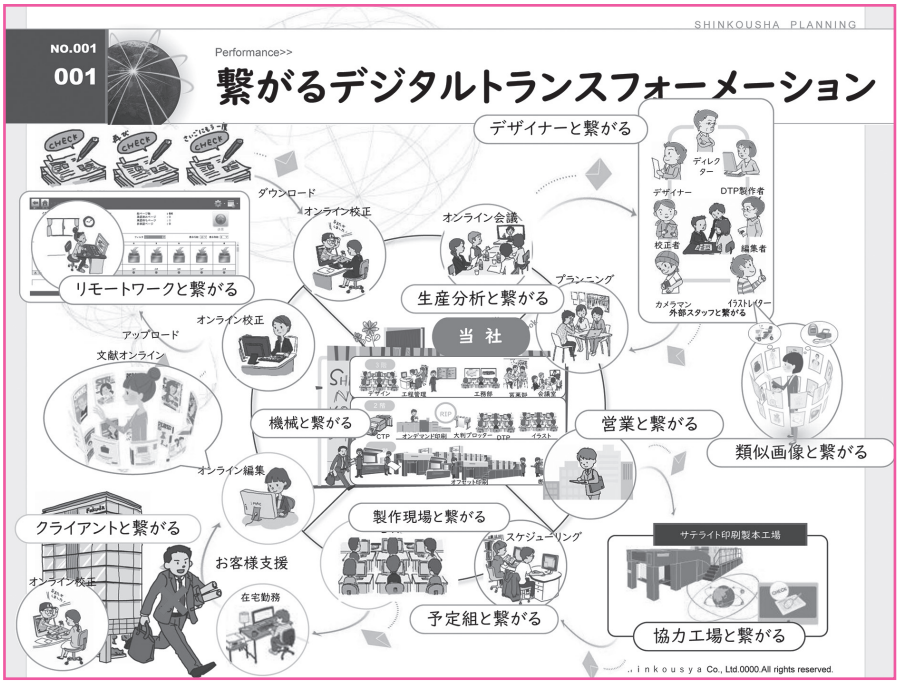
“繋がる” デジタルトランスフォーメーション実現へ
探す手間を省く「類似画像検索システム」登場

医学書関連書籍の制作で知られている株式会社真興社は、JDFをベースとした生産ワークフローの確立、デジタル印刷と製本加工システムを活用した多品種小ロット冊子製作の実現など、デジタル技術を活用した社内整備を積極的に行ってきた。2020年は、コロナ渦により確立していたテレワークシステムの活用が増加。社員の事情に合わせたフレキシブルな働き方をサポートするだけでなく、リモートワークをせざるを得ない顧客先企業や、制作連携している外部スタッフとの業務連携が可能となり、緊急事態宣言下でもスムーズな制作が実現している。

同社では、経営の見える化を実現する基幹業務システム（MIS）と受発注システム（JSP）、生産管理システム（JWS）を連携させたWeb to Printのワークフローを構築し、効率化と自動化を進めている。例えば、工務部で印刷機械のセットアップを行うようにしたことで生産性も向上。１カ月間の印刷稼働率（OEE）が向上し、印刷機の生産性に合わせてCTPを新たに導入。こうした取り組みの背景にあるのは、激変する経営環境への対応である。

変化に対応するためにも、AIやIoTデータを活用した新しいデジタル変革を実現し、生産性を向上させていくことが必要だという。新たなデジタル技術の活用は、これまでにはないビジネスモデルを展開していく。企業が競争力を維持し、強化するためにも、改めて経営戦略を構築することが必要で、企業の組織内の再構築は不可欠であり、それによってDXが進んでいくとしている。

福田社長は、これからの印刷会社におけるDXについて、「営業改革」「システム化」「リモート校正」の３つを挙げる。営業改革により、訪問営業が減少し、コストが削減され、合理化する。システム化で業務改革が可能となり、省人化する。リモート校正の導入で遠隔地でのやり取りが可能になり、テレワーク化も進む。

新サービス、新ビジネスモデルと顧客との新たな関係性を構築し、価値を創出することは競争優位の確立に繋がる。この時のキーワードに『繋がる』を挙げる。『繋がる』とは、管理の中枢となるプリプレスセンターが、製作の現場や担当営業とだけでなく、クライアント、制作に携わるデザイナー、リモートワークするスタッフ、あるいは協力工場に至るまで、業務に関わる全ての関係者とも繋がることを指す。これにより顧客企業のビジネス支援をも実現し、多様に変化する印刷ビジネスにおける利益確保に繋がる。

同社では常に作業の効率化を可能にするシステム開発も積極的に行っている。昨年は類似した画像やイラストを蓄積したデータから検索できる「類似画像検索システム」を開発。医療関係の書籍製作で多くのイラストを製作してきたため、担当者が過去の印刷物から似たイラストを探し出す作業に時間が掛かっていた。新システムは蓄積されているデータの中から、画像イメージをフィルターとして映すだけで、関連するコンテンツが検索され、使いたい画像を選んで利用できるので、コンテンツを探す作業時間が圧倒的に短縮化され、作業負担が軽減した。